

小学五年

国語

解答と解説

1

問一	A
転校しては	(完全)
B	『力』
を使う	21
問二	ウ
問三	手
	22
	23

問四	A
心配	(完全)
B	後悔
問五	エ
問六	昨日の昼間
	24
	25
	26

問七	1
ウ	27
2	エ
問八	イ
問九	ア
問十	イ
(順不問) (完全)	エ
	30
	31

2

問一	ウ
問二	A
興味や好奇心	(完全)
B	想像力
	36
	37

問十一	た	あ	も	家
	か	ち	っ	族
	ら	ゃ	ぽ	の
	。	ん	い	前
		に	子	で
		気	を	無理
		づ	演	を
		か	じ	を
		れ	て	し
		て	い	て
		い	る	明
		る	の	る
		と	が	く
		思	ゝ	子
		っ	ば	ど
				32
				33
				34
				35

問三	へ
知	へのり
問四	④
ア	⑤
エ	⑥
イ	⑩
ウ	
	38
	39
	40
	41
	42

		5		4		3					
⑥	銅板	①	牧師	①	力	①	キ	問九	工	問五	
								ア			
64		59		54		49		48	43		
⑦	停車	②	灯油	②	キ	②	イ		問六	イ	
65		60		55		50			問七	イ	44
⑧	任	③	粉雪	③	オ	③	エ				
66		61		56		51			問八	イ	45
⑨	差	④	乗務	④	ウ	④	ウ	1			
67		62		57		52			2	イ	46
⑩	低	⑤	単独	⑤	イ	⑤	ア				
68		63		58		53				オ	47

(順不問)(完答)

(配点)

{ ①〔問三・九〕各2点、〔問十一〕8点、他各5点
 ②〔問四〕各2点、他各5点
 ③④⑤各2点 }

計150点

【解説】

1 村上雅郁の『あの子の秘密』（フレーベル館）から出題しました。

その人の気持ちを色で感じ取れたり、触れることでその人の気持ちにくわしく読み取れたりする能力を持つ「あたし」（三橋明来）と、「あたし」の家族の姿が描かれています。家族に気を遣い明るくふるまう「あたし」と、離婚し実家にもどってきた娘と孫を心配しながらもやさしく見守る祖父母の気持ちを丁寧に読み取りましょう。

問一

B1 理由 関係づけ

疲れている理由を問われています。――線④の三行後に「あたしは一日『力』を使いまくっていてちよっぴりお疲れモード」とあります。また、ばあちゃんとママの会話からもわかるように、今日は「転校してはじめて（学校に）行く」日でした。このことから、「あたし」は、転校初日から、クラスの子たちを理解するために、『力』を使いまくって「疲れたのだ」と考えられます。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問二

B1 具体化 比較

「肩にふれている手から伝わってきた気持ち」はばあちゃんの気持ちですが、それはどういう気持ちかを読み取ります。そして、「あたしの心に淡くやさしい色の花を咲かせる」は、ばあちゃんの気持ちを知った「あたし」の心が安らいでいることのたとえです。この二点をおさえた選択肢を選びます。

ばあちゃんは「孫に肩を……たいへん喜んで」います。また、

――線②の直後に、「安心して満ち足りたばあちゃんのため息」とあることから、孫である「あたし」とのやりとりや、肩をたたいもらったことによって、安心して、満足した気持ちになっていることもわかります。その前のやりとりで、「あたし」の転校初日はうまくいったと確認し安心したのでしよう。これらのことから、ばあちゃんは、孫である「あたし」が楽しく過ごせることを願い、家族としてその楽しい時間をもとに過ごせていることにも喜びを感じているのだとわかります。よって答えはウです。アはばあちゃんの気持ちに触れられていません。イ「淡くやさしい色の花」という表現と演じていることに気づかれていなくて「ほっとしている」という表現がありません。エ「もつと幸せを感じてもらいたい」という気持ちがないとはいえませんが、そこまで具体的に読み取れる部分がありませんし、「むくむくとわいてきた」という表現も「淡く……咲かせる」とあいまいなので、ウの方が適切だといえます。

問三

A2 知識 関係づけ

③に取るようにわかる」は、実際に触って確かめるかのように、はつきりとわかること、細部まで明瞭に把握、理解できることのたとえです。

問四

B1 具体化 関係づけ

――線④の「暗い影」は、――線⑥の三行前にも出てきます。「ばあちゃんの記憶」の中の、心に重くのしかかっているものは何かを読み取りましょう。ばあちゃんとママの言い争いの

後、——線⑦の二行後に「ばあちゃんの心は、後悔でいっぱいになる」という表現があります。また、その後悔の内容は、⑨の前で「ばあちゃんはあたしのことを心配して、かわりにママを傷つけちゃったことを悔やんでる」と説明されています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五

B1 具体化 比較

直後に、「心にもぐるとき、注意しないといけないのは共感しすぎないこと…下手を打てば、相手の感情にのみこまれてしまう。自分と相手の境界線を見失ってはいけない」とあり、「自分を保つ」とはどういうことか、それをしなければどうなってしまうのか書かれています。また、自分は何者かを言葉にして確認する描写もあります。このことをもとに考えると答えはエです。ア「あたし」が心にもぐることに対して「罪悪感」を抱いているとは本文から読み取れません。イ「相手の感情にのみこまれる」ということに触れられていません。ウ「自分を保つ」とは自他の境界をはっきりさせることであって、「公平な視点から…判断する」ことではありません。

問六

B1 具体化 関係づけ

ばあちゃんの回想部分をよく読むと、「あたし」がママの髪型や持ち物からいつの記憶なのかをさぐる箇所があります。そこを見ると、「昨日の昼間、ばあちゃんとママが午後買い物に出たとき」とあります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解と

します。

問七

1 B1 理由 比較

「うろたえる」とは、思いがけない出来事に直面して、落着きを失い、どうしてよいかわからず取り乱すことです。ばあちゃんは、ママから思いもしなかった言葉を浴びせられたため、「うろたえ」たのだと考えられます。答えはウです。ア「違和感をおぼえた」の部分が「うろたえる」という言葉とありません。イばあちゃんは、ママの苦しさや、その苦しさをばあちゃんはわかってくれていないとつきつけられたことに「うろたえ」ています。「ママの幼さ」に面食らったわけではありません。エ「この離婚でより深く傷ついているのは、『あたし』ではなくママなのだ気づき」「やさしい言葉…申し訳なく」はここからは読み取れません。

2

B1 具体化 比較

ママがここで「あたしだつて、どうしようもなかったのよ」と自分の苦しさを母親であるばあちゃんに打ち明けていることに注目しましょう。ばあちゃんに「母親として」仕事より娘の気持ちを優先させるよう諭されたわけですが、ママはそのことを考えていないわけではない、いや、考えているからこそしんどいのだと打ち明けています。また、「わかったようなこと言わないでよっ!」「母さんはいつもそう」という言葉から、ばあちゃんにはこのしんどさ、つらさをわかってほしいという気持ちが読み取れます。ですから答えはエです。ア「自分の考えをきちんと伝えておきたい」、イ「どうにかこ

「ええ」とがまん」の部分の不適切です。ウ「悪者扱い」「自分がぶちまけてやりたい」という言葉が、本文の内容と少しずれています。

問八

B1 具体化 比較

この直前で「我にかえった」ことに注目しましょう。この表現から、ばあちゃんの心にどつぷりとつかり、自分のみこまれそうになっていったことがわかります。そしてその後、今自分がいるのは、自分たちが住む「家」であり、「マイ・スイート・ホーム」、すなわち家族の幸せあふれる家だとわざわざ語りかえし確認しています。そして——線⑧のあとでいつものように軽口をたたき、ばあちゃんとママが仲直りできるよう立ち回っています。ですから、——線⑧の「深呼吸」はばあちゃんの心の世界にいた自分から現実の世界の自分に切り替えるのに必要な、気持ちをおつかせるための行為でしょう。そして「笑った」は、いつもどおりの明るい自分を演出するための笑顔なのだとわかります。よって答えはイです。ア「ばあちゃんをどこかかわいらしく」、ウ「安心できる場所は…この家だけだと確信し」エ「運よく」「うれしくなっている」が本文からは読み取れません。

問九

B1 関係づけ 比較

⑨の直後に、「きつとあたしに心配をかけたくなかったんだろう」とあることから、昨晚のママとばあちゃんがあまりにふだんどおりで、何かあったとは「あたし」も気づけなかったのだとわかります。このように、口にはもちろん、そんなそぶりも見せないことを「おくびにも出さない」といいます。

「おくび」とはげつぷのことです。

問十

B2 具体化 比較

——線⑩の直前で、「あたし」はばあちゃんに、ママが「いちちゃんやばあちゃんといっしょにいるときは、すぐ気が楽そう」だ、ママがばあちゃんの味噌汁を飲めば「いやなところぜんぶふっ飛んじゃう」と言っていた、と伝え、夕飯に味噌汁を作ることを提案します。そのとき、ばあちゃんの「心にやさしい火」がともっています。このことから、ばあちゃんは、自分たちの家がママの安らぎの場所になっていることを知り、安心し、温かな気持ちになれていることがわかります。また、「あたし」の提案に何度もうなずいていることから、ママをもっと癒してあげたい、あげなければ、という気持ちになれていることも読み取れます。ここからイを選ぶことができます。その一方で、「あたし」に対して「ごめんねえ。あたしは気を遣う子だから。本当はもつとのびのびさせてあげたい」とも言っています。「気を遣う」「ごめん」などの表現から、エを選びます。ア「悩みやつらさからすつかり解放」、ウ「うさんくささを感じ」、オ「矛をおさめるだろうと確信しうれしく」の部分が不適切です。ばあちゃんは、ママが折れることを望んでいるわけではありません。

問十一

B2 理由 推論

冒頭のじいちゃんとのやりとりから、「あたし」は明るい子どものように見えます。しかし、それは明るい子どもを演じているのです。たとえば、ばあちゃんとのやりとりの中で、学校のできごとを「おもしろおかしく報告した」と表現し

たり、「相手のしてほしいことをすれば喜んでもらえる。人づき合いと同じだ」と言ったりしていることから推察できます。人の心を読むときは、冷静な一面もあるし、俯瞰して物事を見ています。でも、家族と会話するときは、子どもっぽい口調だということからも、「あたし」があえて、明るくのびのびした子どもを演じていることがわかります。そうすることで、家族関係がうまくいく、と思っているからでしょう。ばあちゃんに、「気を遣う子…のびのびさせてあげたい」と言われ、ドキッとしたのは、自分が明るくのびのびした子どもを演じていることを見ぬかれたような気がしたからだと考えられます。その後すぐに、軽口をたたいて、ばあちゃんがほっとしたのを感じ取ると「よかった。うまくごまかせたみたい」と思っています。ですから、①ばあちゃんに自分が気を遣っていることを②見ぬかれたという点をおさえて答えを作成しましょう。理由を聞かれているので、文末は「〜から。」です。※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

2

大隅良典・永田和宏『基礎研究者 真理を探究する生き方』(KADOKAWA) から出題しました。

本文では、前半で、「わからない」という時間に耐えること、そしてそれを楽しむという習慣の大切さが書かれ、後半では特に求めている情報にも接することで、思いがけない機会が与えられることがある、そしてその機会によって世界が広がるということが書かれています。そういった時間や機会はインター

ネットの普及・AIの進化によって失われつつあります。その関わりを読み取りましょう。また、言い換えの表現も多く使われていますので、それにも注意しながら読み進めていきましょう。

問一 B1 具体化 比較

線①「検索の精度：上がっている」とは、直前の「言葉の意味だけで：瞬時に答えを出してくれる」ということです。問われているのは、そのことで人間に及ぼされる悪影響です。「すぐに答えを得られる」ことの弊害は——線③を含む段落以降に示されています。そこには「『なんでかな』：疑問を抱え込み、自らそれなりに考えてみるという時間を少なくしている」「最初から：興味を持つ対象にはならない」、すなわち「『知りたい』という欲求」を持ってない、という弊害が書かれています。ですから、答えはウです。本文ではア・エのように人間関係については触れられていませんし、イ「物事を知っているし：思いこんでしまう」などの表現も見当たりません。

問二 B1 理由 関係づけ

線②「なにかを知るため：費やす時間」とは、——線③「『なんでかな』：考えてみるという時間」のことです。——線②を含む段落で、この時間にある程度長さがあることによって「想像力が養われていく」ことが書かれています。また、——線③の四行後にこういった時間がない、すなわち「すぐに答えが返ってくる」ことに慣れてしまったらどうなるか、といったことが書かれています。そこには「興味を持つ」ことができないとあります。「わからない」という時間があるからこそ、

われわれは「『知りたい』という欲求、すなわち〈知〉への「興味や好奇心」を持ち、膨らませることができるといふことです。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問三 B1 具体化 関係づけ

——線③「『なんでかな』…考えてみるという時間」は、二つ後の段落の、「『わからない』という時間」であり、「自分の中で問いや疑問を維持し続け」る、「耐え」る時間であるといふことを読み取りましょう。筆者はこの「耐えている時間」こそが「〈知へのリスベクト（尊敬）を醸成する時間」だと言っています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問四 B1 関係づけ 比較

副詞の問題です。④「直後に「して」おいて欲しい」と願望の言葉があるので、ここには呼応の副詞、「ぜひ」があてはまります。⑤「筆者の少年時代は「本が少なく」とあるので、言わずもがな「インターネット」もあるはずがありません。ですから、ここには「もちろん」が入ります。④・⑥・⑩には「もちろん」が入らなくてもいいのですが、⑤には「もちろん」しか入りませんから、除外できます。⑥「疑問を持つということは〈知〉への入り口ですから、本文ではプラスの意味で使われています。ですから、ここにはめったに得られない恵まれた状況であることを示す「せっかく」があてはまります。⑩「AIは、「興味のある情報」をおす

すめしてくるのだから、わかっていても「つい」「引き込まれてしまうのです。

問五 B1 関係づけ 比較

昔は、論文一つ読むにも、「タイトルから内容を想像」して「おもしろそうだなと思つたら」、著者に別刷り請求のしがきを送り、その論文を取り寄せて読む、という段階を踏む必要がありました。つまり、別刷り請求のしがきの数は、どれくらいの人がある論文に興味があるのか、という指標、すなわち論文の注目度になるわけです。

問六 A2 知識 比較

自分の研究に関する論文を探す中で、自分の研究とは関係がないが、おもしろそうな論文に出会うことがある、すなわち「特に求めている情報にも接すること、思いがけない機会が与えられることがある」ということをたとえたことわざを選びます。「犬も歩けば棒にあたる」には二つの意味があります。一つはしなくてもよいことをして災難にあうことのとえ、もう一つは出歩いたり何かをしたりすると思いがけない幸運に出会うことのとえです。ここでは後者の意味です。

問七 B1 具体化 比較

問六の解説でも触れましたが、——線⑨を含む段落をよく読みましょう。「カレント・コンテンツ」から自分が求めている論文を探すには、自分には直接関係のない、特に求めている情報も目に入れていく必要があります。その中で「自分の研究とは直接関係がないのだが、『なんだかおもしろそうだな』と

問八

「この論文に出会う」ことがあります。これを「歩いていないとぶつからない」と表現しているわけです。今のように、インターネットでキーワード検索しては、「自分の研究とは直接関係がない」論文は目にも入りません。このことが書かれているのはイです。ウ・エは論文との出会いについて書かれていません。アはAIを使用することが条件になっているので、不適切です。

1 B1 理由 比較

「苦笑い」とは、不愉快さや気まずさ、困惑などを紛らわせるために笑うことです。また、おかしいけれど素直に笑えないときにも使います。この場合、AIが筆者におすすめる本として、筆者が「過去に出版した著書」を提案してきたことに對して「苦笑い」しています。人間同士のやりとりなら、ふつうそのようなことはおこりません。しかし、AIは筆者が誰かは知りません。利用者である筆者の興味を過去の履歴から割り出して、この利用者はこのようなことに興味があるだろう、と筆者の著書をおすすめているだけです。利用者の興味の対象を非常に正確に割り出せているともいえるのです。自分の著者をおすすめてきた、その正確さにちよつとした気味悪さを感じたのでしょうか。このことが示されているのはエです。ア「過去の履歴だけからおすすめる」致命的な欠点の部分が不適切です。イ「興味そのものが操作されている」は、「苦笑い」した後に感じた恐怖です。ウ筆者が驚いたのは、自分の著作が「科学者が興味を示すであろう本として選ばれた」ことに對してではありません。また「悪い気はしない自分」などの表現も本文から

は読み取れません。

2 B2 具体化 比較

線①の直後に「私たちが、自ら探したいと思っている情報」が、実は操作されている可能性があるのかもしれないということが一つとあり、二つ後の段落に「もう一つ注意すべきは、自分の興味を付度して、優先的に送られてくる情報にばかり接することによって、自分の世界がどんどん閉じていく危険性がある」とあります。この二つの内容が書かれているものを選びます。ア「知らないことがあるということに不安を感じるようになる」ウ「情報を手に入れるまでに…興味を失ってしまう」エ「本や雑誌…忘れてしまう」などはこの部分には書かれていません。

問九 B1 具体化 比較

「複眼」とは、昆虫などが持つ、小さな目がたくさん集まって一つの目のようになってるもののことです。その小さな目、一つ一つで見えて得た情報をあわせて、一つの像を見ている、というわけです。ですから、「複眼的」とは、いろいろな立場や視点から物事を見て、総合的にとらえるさまを指す言葉だと考えられます。よって答えはアです。この言葉の意味がわからなくても、筆者は、「特に求めている情報にも接すること」で得られる「思いがけない機会」を大切にすべきだ、と説き「一つの世界だけに閉じこもってしまう危険性」を説いています。つまり、一つの世界に閉じこもらず、広く世界を知り、さまざまな視点からものを考えるように説いているわけです。ここからも、答えはアと導けます。イ「好き嫌いではなく」、ウ「自

分なりの分析」、エ「寛容なものの見方」の部分の不適切です。これらには、いろいろな視点から物事をとらえる、という内容が十分に示されていません。

たす」を使います。

3 **A1** 知識 比較

色を表す漢字が入った慣用句の問題です。

- ① 黄色い声：若い女性や子どものかん高い声。
- ② 銀世界：雪が一面に積もった景色。
- ③ 白羽の矢：たくさんの中から特に目をつけて選び出されること。
- ④ 黒幕：かげで指図したり、計画を考えたりする人。
- ⑤ 金字塔：のちの世に残るような立派な仕事の出来栄え。

4 **A2** 知識 比較

敬語の問題です。相手側の行為には尊敬語、自分側の行為には謙譲語を使います。その語の主語にあたるのが自分側の人間か、相手側の人間かをとらえましょう。

- ① 「見る」のは主語が明示されていませんが、文脈から「わたし」でしょうから、「見る」の謙譲語の「はいけんする」を使います。
- ② 「来る」のは「先生」ですから、「来る」の尊敬語である「いらっしゃる」を使います。
- ③ 「もらった」のは文脈から「わたし」ですから、「もらう」の謙譲語である「いただく」を使います。
- ④ 「言っている」のはBさんですから、「言う」の尊敬語である「おっしゃる」を使います。
- ⑤ 「する」のは「わたし」ですから、「する」の謙譲語である「い